

会 議 録

| | | | | | |
|---|---|------|----|------|----|
| 会議の名称 | 令和7年度 第6回小牧市市民活動促進委員会 | | | | |
| 開催日時 | 令和8年3月27日（金）午前10時30分から11時30分まで | | | | |
| 開催場所 | 小牧市役所本庁舎 402会議室 | | | | |
| 出席者 | 【委員】 竹中委員長、三島副委員長、伊藤委員、戸成委員、立川委員、藤岡委員、大句委員、鈴木委員、森田委員 【事務局】 倉知課長、山中係長、松永、坂東 | | | | |
| 傍聴の可否 | <input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 否 | 傍聴定員 | 5名 | 傍聴人数 | 0名 |
| 会議次第 | 1 開会 2 議題 (1) 令和7年度市民活動推進事業実績報告について (2) 令和8年度市民活動推進事業計画について 3 その他 | | | | |
| 問合せ先 | 小牧市健康生きがい支え合い推進部支え合い協働推進課 | | | | |
| 会 議 内 容 | | | | | |
| 1 開会 2 議題 (1) 令和7年度市民活動推進事業実績報告について ※資料に基づき事務局より説明 (三島副委員長) テラスも様々な活動を積極的に展開されていると思った。今年度注力した新たな取り組みの結果について、何か見えてきたもの、成果や課題について教えていただけたらと思う。 (事務局) 今年度特に力を入れたのがボランティアチャレンジ事業である。ボランティア情報配信ラインの運用を令和5年度途中から始めたが、7年度に市制70周年という記念すべき年でもあったことから記念品をつけた形での募集を行った結果、登録者も非常に増えた。SNSを活用したためか市外の方もたくさん参加されたことが今までのボランティアの呼びかけと違って来たところではないかと感じている。記念品をつけて参加の契機にするという目的ではあったが、記念品を望まれない方も一定数いたことも印象的だった。資料で参加者を102名と記載しているが、これは引き換えを申請された方の数であり、活動に参加されて対象になる方は170名超いたので、ボランティアに取り組まれる意識の差が表れたのではないかと思う。 短時間でも少し参加してみようというきっかけづくりとしては一定の効果があった | | | | | |

が、今後の課題として、人を受け入れて、その方たちを自分たちの活動につなげていくという団体側の受け入れ体制の確保について、もう少し支援できる方法があったら良いなと感じている。新たなボランティアを受け入れる余裕がない団体もあり、その対応を市側でお手伝いしたケースもあった。団体のメンバーが固定する中で新しいメンバーを引き込むツールとしても、活用していただければと考えている。

(三島副委員長)

そこをサポートできるような研修や個別相談等ができるの良いと思う。

(藤岡委員)

関連した話になるが、岡崎市でもボランティアマッチングの仕組みを作っているが、LINEでのマッチングはまだ取り入れていない。LINEで多数のマッチングが成立したことは分かったが、テラスの利用状況の表でボランティアマッチングが「3件」であった。マッチングの場がLINEに移行したため、テラスの窓口での相談が減ったのか。これまでボランティアに参加していなかった層を開拓できたのか。様々なマッチング方法を試される中でどのような感想を持たれたのかお話を伺えればと思う。

(事務局)

窓口で相談があった場合には、常設冊子の「こまボラ」を紹介している。「こまボラ」は小牧市内で年間を通じてボランティアを募集している団体の情報を掲載した冊子であり、これをご覧いただきながら説明を行っている。また、今年度については市制70周年記念ボランティアチャレンジ事業があったため、窓口ではその案内も併せて行い、結果としてLINEの利用につながるケースが多く見られた。そうした要因もあり、件数はこのような数字になっているのではないかと考えている。

(藤岡委員)

どちらかと言うとLINEを登録するよう誘導をされていたのか。

(事務局)

初めてボランティアをされるならこちらの方が参加しやすいかもしれないというご紹介はした。

(藤岡委員)

ボランティアに参加された方の層が変わったなどはあったか。

(事務局)

LINEでの応募であるため、やはり比較的若い方が多かった。

(伊藤委員)

LINEでのマッチングが増えたという話だったが、団体の受け入れの方がなかなか難しいという話もあった。ここでマッチングされているのは団体への活動というより、どちらかと言うとイベントのお手伝い的なボランティアが多いイメージだが、実際はいかがか。

(事務局)

今年度については確かにイベントごとでのボランティアが多く、実際にイベントのボランティア募集の方が集まる傾向もあるが、団体の活動で利用されているところもある。一色コスモスサポート学習の会や一寸奉仕こまきもこのLINEで参加された方がその後団体に加入したという報告があったため、そういった効果があったかと思う。

(立川委員)

補足だが、これまでがイベントばかりであった。今年度から一度体験のような形で利用してみないかと団体に声掛けをしたため、ボランティアを募集する団体側が昨年より増えた。

(伊藤委員)

現在の小牧市全体における市民活動団体の状況について伺いたい。市の団体情報に登録されている団体一覧を見ると、特に継続団体については、以前と比べて大きな変化が見られず、新しい団体の登録があまり増えていないような印象を受けた。新規団体が登録しにくい状況があるのか。また、従来から活動している団体の高齢化が進み、それが課題であると団体から話を聞く。こうした課題について解消、緩和できるような仕組みや支援がないかと思い、現在の状況について教えていただきたい。

(事務局)

団体情報ガイドブックの現在の登録団体数は500団体以上であるが、団体の高齢化などを理由に活動を終了する団体も多い。その一方で、新規に登録される団体も月に数件ではあるが、一定数いらっしゃる。

(竹中委員長)

ボランティア情報配信 LINE の運用についてであるが、資料に記載されている「185人」については、延べ人数だと思うが、重複しているのは何人ぐらいいるのか。

(事務局)

実人数については正確に集計していないが、体感的には全体の内およそ1割程度がリピート参加者ではないかという印象である。リピート回数は多くても5回ほどではないかと思う。

(竹中委員長)

そうすると実人数としてはボランティアチャレンジ事業ともリンクしている100人程度ではないかと思う。先ほどマッチングにより、どのような活動が行われたのかという話があったが、ボランティア活動においては参加してみたものの、内容が合わず離れてしまういわゆる mismatch が生じることも少なくない。上手くマッチングで展開していけるような方向づけがこちらからできると良いのではないかと思う。例えば、質問を整理するなどの工夫も考えられるが、この点について何か取り組みや考えがあれば伺いたい。

(事務局)

要望を受ける際、提供する情報が少ないと「想定していた内容と違う」といった mismatch が起こりうるのではないかと考えている。そのため、LINE で配信する際にあらかじめ業務内容を伝えるようにしている。内容は簡単なものではあるが、「受付の補助」「伐採作業の手伝い」「ガラス拭きの手伝い」などできる限り具体的な作業内容を記載している。

(竹中委員長)

ボランティアを受け入れる側も大変で受け入れるための活動を用意する必要がある。

(2) 令和8年度市民活動推進事業計画について

※資料に基づき事務局より説明

(竹中委員長)

4月1日から募集が始まる助成金について、現時点で事前の相談や問合せによる応募数の見通しはあるか。

(事務局)

先日行った助成金の事前説明会での相談会には3団体が参加された。それとは別に学生団体 Dream さんが申請を考えていると伺った。

(竹中委員長)

3団体は全てこれまで応募したことのない新規での申請か。

(事務局)

新規での申請である。

(立川委員)

他にもこまき視覚障がい者の会さんも申請をされると伺っている。また、過去に助成金を申請し、その後休止していた団体についても、改めて申請するかもしれないという話を伺っているため、令和8年度は令和7年度より申請が増える可能性がある。

(戸成委員)

根本的な話を伺いたい。私は今年の3月まで1年間、東大の先生とともに大府市の市長アドバイザーを務めていた。その際、市民活動センターに社会福祉協議会のボランティアセンターを吸収する提案を行い、大府市では市民活動センターへの一本化が進められることになった。小牧市においても、ボランティア団体と市民、社会福祉協議会の方、ボランティアセンターのボランティア団体が最終的に集まる場としてワクティブこまきの役割が大きいと感じている。ワクティブこまきの機能が市民に浸透してきたのならば、市民活動とボランティア活動を一本化するべきだと個人的には思うが、一本化の是非も含めて検討するための検討会等を立ち上げる考えがあるのか伺いたい。

(事務局)

現時点において、ワクティブこまきと社会福祉協議会のボランティアセンターを統合する検討段階には至っていない。ワクティブこまきを立ち上げる際、社会福祉協議会のボランティアセンターとの連携を密に取れる体制をつくれぬか議論はあった。今年度においてもアクティブシニアの総合相談窓口を社会福祉協議会に委託し、運営を行い、社会福祉協議会のボランティアセンターとの連携を密に取りながら情報共有も行ってきたが、現段階ではワクティブこまきに一本化した方が良いとの考えまでには至っていない。ただ現状、社会福祉協議会の方は主に福祉分野の活動をされるボランティア団体が多くいらっしゃるのと地区ごとに地区ボランティアを構成し運営する体制を取っている。その地区ボランティアのあり方についても現在、社会福祉協議会内部で検討しているため、今後の動向によっては改めて統合等に関する議論が起こる可能性が全くないとは言えない。

(戸成委員)

市民活動やボランティア活動は福祉を主体にスタートした経緯があり、福祉を中心とするボランティアセンターの意義や役割は非常に大きなものであったと思う。市民活動が福祉分野にとどまらず多様化、広範化してきた中で、市民の視点から見ると市

民活動センターとボランティアセンターの違いが分かりにくくなってきているのではないか。市民にとってはなぜ分かれているか理解しづらく、「行政上の組織が異なるため」という説明だけでは、十分な説明にはならなくなってきているのではないか。個人的な見解だが、「連携」という形では実際には十分に機能しない場合が多い。表立って示す時期は別としても、統合も含めた検討を開始する時期に来ているのではないかと思う。

(事務局)

小牧市の場合、生涯学習分野に「こまなびサロン」という組織があり、運営している市民会館が1年ほど工事のため使用できない時期があった。その期間中、ワクティブこまきが総合相談窓口として機能し、現在も生涯学習団体に関する相談を多数受けている。そうしたことも含め、議論していく時期というのはいずれかのタイミングであるのではないかと思うところである。

(伊藤委員)

事業計画について、前年度とほぼ同様の内容になっているように見受けられるが、令和7年度の振り返りを踏まえ、令和8年度において新たに設定した目標や特に注力していきたい点などがあれば教えていただきたい。課題を整理した上で「この点に重点を置いて取り組んでいきたい」といった考えが事業計画に反映されることが望ましいと思う。

(事務局)

具体的な業務内容の大きな変更までは資料上に示せていないが、先ほど述べたとおり、ボランティア情報配信ラインについては、今後、受け入れ側の団体に対して、より密に情報収集を行うとともに、必要に応じた支援ができないかと考えている。また、事業としてはまだ詳細が確定していないため計画には明記していないが、市が支援している地域協議会においても、担い手不足という共通の課題を抱えている。資料には「こまき市民討議会まちづくりミーティング」を記載しているが、そこで活用している無作為抽出による参加者募集の手法を地域協議会とのマッチングの場にも活用できないかと検討している。その際には、「こまき市民討議会まちづくりミーティング」で協働しているファシリテーターの会にも協力を依頼したいと考えている。現時点ではまだ構想段階であり、事業計画には記載していないが、今後このような取組も進めていければと考えている。

(三島副委員長)

自分が取り組んだことで言うと、結局のところ地域協議会がこれまでのやり方を見直し、新しい手法で他者と連携しながら何をするかというスタンスに転換しないと、様々なことが前に進まないのではないかと感じる。地域支援の職員や地域担当職員がいると伺った。

(事務局)

地域協議会では地区ごとの担当を決めている一方で、その地区担当だけで全てを担えないためサポーターとして登録していただいている。防災関係では避難所に駆けつける人員の定められており防災訓練などを行う際には参加していただく。

(三島副委員長)

サポーターがいて、さらにファシリテーターの方もいるため、新しい取組に向けた

体制が生まれてくるのではないかと思います。次の段階としてはぜひそうした場の中に入っていくと良いと思うし、そこに市民活動団体や生涯学習団体、さらには若い世代をどのように接続していくかという点も大切になると思う。そうしたハブとして市民交流テラスが重要な役割を果たすのではないかと感じた。

もう1つ質問がある。市民と行政のテーマ別意見交換会についてだが、令和7年度は行政職員2名と市民活動団体3名という構成で市民から募集したテーマに沿って、担当課と市民活動団体がディスカッションを行う形になっている。どのようなテーマが設定されていたのか。単なる個別の意見交換会にとどまらず、もう少しテーマを大きく捉え、例えば、スポーツイベントであればスポーツ課だけでなく、福祉課や子ども関連の部署など、横断的に関わる形も考えられると市民活動団体も横断的に議論でき、新しいものが生まれる可能性があるのではないかと感じた。位置付けもあるかと思うが、どのようなプロセスでテーマ設定や地域交換会を行われる予定か。

(事務局)

令和7年度については、障がいのある方、主に知的障がい、精神障がい、発達障害の避難についてというテーマで開催した。参加者については発達障害の当事者の支援を行っているパパママサポートあおぞらさんから2名参加していただき、社会福祉協議会から1名参加いただいた。行政側は防災危機管理課と福祉総務課に参加いただいた。

(三島副委員長)

横断的に行われていて素晴らしいと思ったが、もう少し声をかけると関わる団体や考えてみたいと思う方もいらっしゃると思うので、それをより発展されると素晴らしいと思った。

以上